

# 行歯会だより 第106号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 27 年 11・12 月号

## 【今月の記事】

- 1 第 23 回全国歯科保健推進研修会『開催記』  
山梨県福祉保健部健康増進課 歯科保健主幹 岡安 こずえ
- 2 第 23 回全国歯科保健推進研修会『受講報告』  
奈良県健康福祉部健康づくり推進課 堀江 博
- 3 第 74 回日本公衆衛生学会総会自由集会  
「多職種で考える・進める歯科保健－公衆衛生から見たフッ化物応用－」  
岡山市保健所 河本 幸子
- 4 【報告】第 38 回むし歯予防全国大会 in SAGA  
熊本県有明保健所 楠田 美佳
- 5 若手奮闘記 No. 5  
茨城県保健福祉部保健予防課 主任 瀧澤 伸枝

## 1 第 23 回全国歯科保健推進研修会『開催記』

山梨県福祉保健部健康増進課 歯科保健主幹 岡安こずえ

第 23 回全国歯科保健推進研修会 [平成 27 年 11 月 6 日 (金)] を開催させていただきました山梨県の岡安です。この度、研修会に御参加いただいた富山県の片岡先生より、「開催記」執筆令を頂戴しました。

本研修会の山梨物語は 2 年前の平成 25 年初秋に始まりました。当時、本県では知事提案による歯科保健条例制定に加えて、ほぼ同時期の歯科保健計画策定に向けた動きがあり様々な関連情報の収集を行うなど、かなり鋭感になっていました。そのような中、平成 27 年度に全国歯科保健大会を本県で開催したい、という県歯科医師会理事からの相談という名の開催受諾報告を受けることになりました。

目の前のスケジュールでさえ先が読めない状況下でのまさかの全国大会主催話、「本気!？」と同時に脳裏に浮かんだのが本研修会の存在でした。当時行政 2 年生だった私には正にお先真っ暗の山梨物語の始まりでした。

開催までの準備期間中に色々とお世話になった既開催県の皆様には予算確保に必要な資料の御提供や貴重なアドバイスをいただき本当にありがとうございました。

さて、片生りの筆者が望まなくともストーリーは進み、あっという間に研修会当日

を迎えることとなりました。季節は11月、紅葉深まる中での開催となりましたが遠方より研修会に御参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。

今回の研修会ではテーマを「人口減少社会における地域歯科保健 ～健康寿命の延伸と格差縮小に向けて～」とし、5人の講師から御講演を頂きました。開催した立場から感じたことを述べさせていただきます。

内容：「最近の歯科保健医療施策の動き」

高田 淳子先生（厚生労働省医政局歯科保健課 歯科口腔保健専門官）

「乳幼児の発育に必要な歯科の知識」

鎌田 秀一先生（日本口腔育成学会 理事）

「小規模学校での取組～ともに取り組むために～」

有野 久美先生（山梨県身延町立西島小学校 養護教諭）

「疎遠になりがちな成人期における口腔保健と対応策」

小川 智久先生（日本歯科大学附属病院 総合診療科 准教授）

「高齢期における歯科保健」

牧 茂先生（松本歯科大学 特任教授）

先ず、厚生労働省の高田先生からは、「最近の歯科保健医療施策の動き」と題して、歯科保健に関する体制整備の変遷や、歯周病検診マニュアル改訂、H28年度予算要求、近年の歯科保健医療に関する様々な関連データについて説明を頂きました。少子高齢化に伴い基礎疾患を持つことの多い高齢者を対象とする機会が増え、求められる歯科医療関係者の在り方も変化していること、主に健常者を対象とする医療提供型から口腔機能の回復等に着目しこれまでの歯科という孤城のフィールドに限らず、医療介護全般の中における一診療科としての役割を担う事が期待されており実践していかなくてはならない旨等、我々の今後の職責を痛感させられるお話でした。

次にライフステージ毎に4人の講師から御講演をいただきました。先ず、周産期・乳幼児期について口腔育成学会理事の鎌田秀一先生から、子どもを取り巻く環境が変化してきており、一部の層で貧困率が高まるなど家族間格差が大きくなっていること、親世代も含めた保健指導の充実を図ることの大切さを伺いました。次に学齢期・思春期について本県の養護教諭・有野久美先生から現状・課題を踏まえた上で子ども達の自主性を促し、校内に限らない保護者や地域との連携を図りながら実施している取組について紹介して頂きました。歯科保健に理解の深い担当者の取組事例を受け、教育関係者との密な連携の必要性を改めて実感しました。成人期を御担当された日本歯科大学附属病院の小川智久先生からは、周産期も含めた成人期の口腔の健康づくりの大切さについてお話しいただきましたが歯科検診受診に向けた新たな取組の必要性についても言及されました。最後に松本歯科大学の牧 茂先生から高齢期の歯科保健について口腔の健康の維持・増進がいかにかQOLに貢献するのか、また、そのために現在どのような取組がなされているのか御紹介いただきました。

講演後のシンポジウムでは各ライフステージにおける取組の重要性に加えて、今後は包括的なライフコースアプローチを念頭に取組を推進する必要があることが討議されました。

講師及び参加者の皆様には当方の諸種不手際により時間に余裕がなく御迷惑をお掛けしました。翌日に開催された第36回全国歯科保健大会の特別講演で養老孟司先生が「現代は情報社会であるが、情報とは過去のもの、過去に捕らわれずいかに前を見据えて生きていくのか、それが大切」とおっしゃっておられました。開雲見日、随分と勝手ではありますが今回の経験を踏まえて今後の取組に活かして行きたいと思っております。



全国歯科保健大会の会場となった  
コラニー文化ホール

なお、全国歯科保健大会の大会旗は本県から次期開催県の沖縄県へと託されました。本研修会も行政歯科技術職の今後の活躍を目的として継承されていくことを期待して筆を置かせて頂きます。

## 2 第23回全国歯科保健推進研修会『受講報告』

奈良県健康福祉部健康づくり推進課 堀江 博

去る、平成27年11月7日（土）に山梨県甲府市で開催された第36回全国歯科保健大会の前日の6日（金）の午後、JR甲府駅近くの山梨県立図書館2階多目的ホールで標記研修会が開催されましたので、概要を報告させていただきます。参加者数は会場ざっと見渡して70人強くらいだったのではないかと思います。

山梨県福祉保健部健康増進課 依田誠二課長と一般社団法人山梨県歯科医師会 井出公一会長の挨拶に続き、5人の講師から講演、その後シンポジウムと3時間半盛りだくさんの内容でした。山梨県では健康増進課歯科保健主幹の岡安こずえ先生がシンポジウムのコーディネーターを務めるなど、研修会の準備及び実施にご活躍されていました。岡安先生いわく山梨県は保健所にも市町村にも歯科衛生士の配置はないとのことですので、研修会開催にあたっては相当ご苦労されたことと推察いたします。研修会終了後の懇親会で、山梨県内からの参加者が少なかったこともお聞きして、地域が異なれば、課題もいろいろ異なるのだなと思いました。以下、内容をご報告します。

### ○講演Ⅰ「最近の歯科保健医療施策の動き」

厚生労働省医政局歯科保健課 歯科口腔保健専門官 高田淳子先生

#### 1 歯科保健関係

- ・ 歯周疾患検診マニュアルの改正（歯周病検診マニュアル2015）について

歯周疾患検診は全国の58.6%（H25）の市町村で実施されている。

WHOで歯周病スクリーニング方法の見直しがあったことが背景にある。

検診した後のフォローがされていない



いことが問題視されている。

歯科疾患実態調査の結果によれば、歯周病（4mm以上ポケット）は4割程度だが、歯周疾患検診の要精検率は8割ある。原因としてコード2（歯石沈着）が要精検の多くを占めることがあり、今回の改正で歯石沈着は要指導とした。

- ・ 8020運動推進特別事業について  
都道府県独自の取り組みについて紹介  
（広島県、鹿児島県、香川県、大分県、栃木県）
- ・ 歯科疾患実態調査について  
平成28年度実施にかかる準備依頼

## 2 歯科医療関係

- ・ 医療法に基づく広告可能な診療科名について
- ・ 歯科医学関係学会について  
数が多く、一般人にとってわかりにくくなっている現状
- ・ 女性歯科医師の増について
- ・ 特定商取引について  
美容外科、審美歯科、インプラントに係る契約トラブルの増加、解約ルールの設定の検討

## ○講演Ⅱ「乳幼児の発育に必要な歯科の知識」

日本口腔育成学会 理事 鎌田秀一先生

- ・ 開業地である宮崎の紹介
- ・ 日本口腔育成学会の紹介
- ・ 現在の社会情勢について説明  
人口減、ひとり親世帯の子どもの貧困
- ・ 貧困リスクについて説明  
低学歴、低年齢出産、離婚
- ・ 幼児で正常咬合者の割合が減少傾向にあるとの指摘
- ・ 社会環境（貧困）をう触の病因として追加する旨の提言
- ・ かかりつけ歯科医による定期継続的な観察の必要性について提言

## ○講演Ⅲ「小規模学校での取組～ともに取り組むために～」

山梨県身延町立西島小学校 養護教諭 有野久美先生

- ・ 身延町の紹介（人口13,237人、高齢化率42.3%、12歳DMFT2.0）
- ・ 西島小学校の紹介（児童数66人）
- ・ 現状についての説明  
入学時に既にむし歯がある。  
保護者が仕上げ磨きをしていない。  
保護者の認識として、乳歯は生え変わるから放置で構わない。  
学校で歯磨きをすると、児童が歯ブラシを噛んでおり、歯磨きすることを理解していない。
- ・ 取り組みについて説明  
歯科保健対策を学校保健重点課題として取り組んだ。



6歳臼歯を理解させることに重点を置いた。  
個別に歯垢染色による歯磨き指導を実施した。  
児童保健委員会の活動（むし歯罹患歯のマーキングによる好発部位の理解、  
歯磨き実施ポイント制度（元気ニコニコ銀行キラキラ貯金））

#### ○講演Ⅳ「疎遠になりがちな成人期における口腔保健と対応策」

日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授 小川智久先生

- ・今回、成人期としては20～60歳を想定しているとのこと。
- ・日本歯科大学附属病院に設置しているマタニティ歯科外来の紹介  
2010年4月開設、スタッフ全員女性
- ・大学所属の歯科関係者は、日本歯科医師会が平成24年3月に発出した母子健康手帳活用ガイドの存在をあまり知らない旨の指摘
- ・成人では口臭を気にする人の割合が高い旨の指摘
- ・歯・口腔のことを気にしていても歯科受診をしていない旨の指摘
- ・中年期で歯の大切さについて意識し始める旨の指摘
- ・糖尿病と歯周病の関係、日本糖尿病協会の糖尿病連携手帳の説明
- ・メタボリックシンドロームと歯周病の関係、保有リスク数の増と歯周病罹患リスク増の関係について説明
- ・自己の入院体験に基づき、入院患者を対象とした歯科保健介入の可能性について提言
- ・歯科健診受診率が地味に増加しており、関係者の地道な努力の成果との指摘
- ・歯科健診受診率向上について、歯科関係企業から募集した取り組みアイデアについて紹介

#### ○講演Ⅴ「高齢期における歯科保健」

松本歯科大学 特任教授 牧茂先生

- ・歯科疾患実態調査結果から、高齢者の歯科口腔の状況について説明
- ・近年の高齢者を対象とした歯科口腔関係の調査研究について説明  
残存歯が多いほど医科医療費が少ない。（長野県 他）  
機能している歯が多いほど生存年数が長い。（宮古島スタディー）  
残存歯が多いほど、また義歯を使用し機能回復を図ると認知症の発症が少ない。（愛知県）  
専門的な口腔ケアを行うと、誤嚥性肺炎の発症が少なくなる。（米山先生、ランセット掲載）  
周術期に専門的な口腔ケアを行うと、術後の合併症の発症が少なく、在院日数も少なくなる。（静岡県立がんセンター、千葉大学医学部附属病院）
- ・神奈川県健口体操ムービーの上映

#### ○シンポジウム

人口減少社会における地域歯科保健 ～健康寿命の延伸と格差縮小に向けて～

##### 【パネリスト】

- ・厚生労働省医政局歯科保健課 歯科口腔保健専門官 高田淳子先生
- ・日本口腔育成学会 理事 鎌田秀一先生
- ・山梨県身延町立西島小学校 養護教諭 有野久美先生

- ・ 日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授 小川智久先生
- ・ 松本歯科大学 特任教授 牧茂先生

【コーディネーター】

- ・ 山梨県福祉保健部健康増進課 歯科保健主幹 岡安こずえ先生

【発言要旨】

- ・ 歯科による介入効果のエビデンスを示せないと政策として残せないの、地方行政と厚労省間の関係データのシェアについて依頼。（高田先生）
- ・ 歯科の検査の精度を高めることの必要性について指摘。（鎌田先生）
- ・ エビデンスについては、データの人数を増やすことが必要な旨の指摘。（鎌田先生）
- ・ 小児歯科口腔保健指導について、歯ブラシテクニックだけではなく、子どもの性格に応じた声掛け、介入を行うことの必要性について指摘。（鎌田先生）
- ・ 早い時期からの取り組みが重要である旨の指摘（有野先生）
- ・ 学校（歯科）保健のデータが大人になっても引き継げるようになるとよい旨の提言（有野先生）
- ・ 子どもの口から子どもの生活が見えてくる旨のコメント。（有野先生）
- ・ 歯科口腔保健意識を変えるにあたって、成人期から始めるのでは遅い旨の指摘。（小川先生）
- ・ 歯科の介入効果のエビデンスを示すにあたって、研究デザイン（アウトカム設定）が難しい旨のコメント（牧先生）
- ・ 人材育成が重要であるとのまとめ（岡安先生）

### 3 第 74 回日本公衆衛生学会総会自由集会

#### 「多職種で考える・進める歯科保健－公衆衛生から見たフッ化物応用－」

岡山市保健所 河本幸子

岡山市の河本です。長崎で開催された公衆衛生学会に参加してきました。自由集会では、長崎・佐賀・宮崎 3 県のフッ化物洗口に関する取組が紹介されました。

参加者は 50 名弱、長崎県歯科医師会の先生方はじめ歯科医師、保健師、歯科衛生士、医師、栄養士、事務職、大学教員等、様々な職種の方が参加されていました。

まず、長崎県の重政先生から、九州ブロックの歯科保健主管課長会議資料の紹介があり、九州・沖縄 8 県および保健所設置市 11 市のフッ化物応用事業等のとりまとめがされていることが示されました。長崎県では、平成 10 年度に県歯科医師会がフッ化物に関する推進を表明されて以降、平成 12 年度に策定した「歯なまるスマイル 21」プランにフッ化物応用推進を位置づけ、平成 21 年度には「長崎県歯・口腔の歯科保健推進条例」にフッ化物洗口推進を盛り込み、取り組んでいるそうです。県の政策企画課が主管課となり、中核市を含む県下の市町村との協議を行い、全小学校でのフッ化物洗口導入を目指しているとのことでした。薬剤である洗口剤を使用し、私立や認可外保育所も事業の対象としているのが特徴だそうです。

次に、森内歯科衛生士から歯科衛生士養成学校の教官であった経験も踏まえ、佐賀県の現状について、話がありました。佐賀県では、すでにフッ化物洗口が広まっていることもあり、歯科衛生士学生の多くは、フッ化物洗口を経験しており、何の疑問も持たず、ただ「よいこと」としか思っていないという状況のようです。もちろん、学生にはむし歯はなく、きれいな歯をしているそうですが、歯科医院を受診した経験がある学生は 1～2 割しかおらず、歯垢がべったりと付着し、不正咬合もあり、歯ブラシの交換などの基本的な口腔衛生の知識自体が欠如していると非常に衝撃的な状況が説明されました。歯科衛生士が他職種の人々に、フッ化物の利用について、正しく理解してもらえるような知識と伝え方を身につけることが必要だと感じているとのことでした。

最後に、森木先生から、宮崎県は平成 13 年度に三歳児のむし歯が全国ワースト 1 であったことをきっかけに、保育所・幼稚園からフッ化物洗口の事業が開始され、市町村保健師の頑張りや校長先生の熱意により、小学校・中学校へと広がり、市長や市教育長も巻き込み、中核市である宮崎市にも拡大していったと経過が説明されました。途中、ある地域の全家庭にフッ化物洗口反対のビラが配られるということもあったそうですが、県からも詳しく説明したチラシを回覧するなど、対応したそうです。特別支援学校で、どのようにフッ化物洗口を実施するか等の課題もあるとのことでした。

意見交換では、フッ化物洗口の実施率を伸ばすためには、教育長のトップダウンによる影響が大きいとか、佐賀県が九州の他の県にもよい刺激を与えているとか、多くの発言がありました。残念ながら、私は他の自由集会も掛け持ちしていたため、その後の懇親会に参加できませんでしたが、熱い議論が続けられたことでしょう。

サンスターからエフコートも発売されました。これからもフッ化物洗口がすすんでいくよう、それぞれの持ち場で責任を果たしていきましょう。



## 4 【報告】第38回むし歯予防全国大会 in SAGA

熊本県有明保健所 楠田美佳

### 第28回から10年経って佐賀県で開催

2004年（平成16年）に佐賀県唐津市で開催された第28回大会から10年を経て、第38回大会が佐賀県佐賀市で開催されました。唐津市の大会にも行ったことをおぼろげに思い出しながら、この10年間の佐賀県における飛躍的な躍進を目の当たりにした1日の報告をさせていただきます。

### 協働で開催する佐賀県

本大会は、NPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議が主催されていますが、第38回大会は、佐賀県歯科医師会及び佐賀県が共催となり、実行委員会を設置し、三者協働で運営を行われていました。主催者挨拶も佐賀県歯科医師会長、NPO法人会長、佐賀県健康福祉本部長と三者が並びました。この体制が佐賀県の強みであるのだと実感させられました。



### 基調講演「健口健歯が健康寿命を延ばす」

— 歯科保健と歯科医療のベストミックスが不可欠 —

講師：新潟医療福祉大学医療情報管理学科 教授 瀧口徹 先生

8020運動、健康日本21、健康増進法、歯科口腔保健法等、これまでの歯科保健施策、関連法規の制定経緯等、間近で携わってこられた瀧口先生ならではのエピソードを交えながら御講演いただきました。

また、歯科保健と医療保健のベストミックスによる効率的な歯牙喪失予防が、健康寿命の延伸に寄与している点等にも触れていただく等、興味深い御講演の内容でした。そして、最後にメッセージとしていただいた「鳥の目で見ること」（大局的な見地でみること）が大切であるという言葉が心に残っています。

時折現れる新潟の素晴らしい自然も目にしながらの中身の濃い貴重な時間となりました。





## 中身がギュッと詰まった「シンポジウム」～もっと時間が欲しいと思いました～

シンポジストの方々による現状と取組み紹介があり、その後フロアを交えてのディスカッションがありました。伝えたいことが多く、職場では思わず複数枚に及ぶ報告書を作成して回覧してしまったほどです。ここでは、その一部とはなりますが、シンポジストの発言とその後のディスカッションをまとめて御紹介させていただきます。

### ① フッ化物配合歯磨剤（日本歯磨工業会 技術委員会委員長 柴崎顕一郎 氏）

- ・ 日本人は平均的な1日の歯磨き回数も増え、1日2回以上磨く人は7割を超えている。
  - ・ 歯磨剤の出荷状況は、2012年に1千億円を超えており、これだけ伸びている製品は他にはない。歯周病関係の高価なものが売れている。意識が高くなってきていると思われる。
  - ・ フッ化物配合の重量シェア率は、1995年に50%未満であったのが、現在では90%を超えている。ただし、アメリカでは1970年代にはこのような状況にあり、日本は30年程遅れている。
- ※ フッ化物配合歯磨剤を使用していない人もまだいるので、今後も啓発が必要である。低年齢児から使用できるようになるといい。



### ② つなげる歯科保健事業を—小城市のフッ化物塗布事業—

（小城市福祉部健康増進課母子保健係長 南里真美 氏）

- ・ 平成11年度から佐賀県の緊急対策事業により歯科保健に取り組んできた。県の補助金がなくなり、事業見直しが言われる中、事業を継続してこられたのは小城市歯科保健連絡協議会で歯科医師会をはじめとする関係者からの評価があるから。
  - ・ 1歳児からのフッ化物塗布、4歳児からのフッ化物洗口、その他、パパママ教室等の健康教育に重点をおいて取り組んでいる。
- ※ 保護者の意識のある人しかフッ化物塗布をしない。多くの人が利用できるようになるとうい。

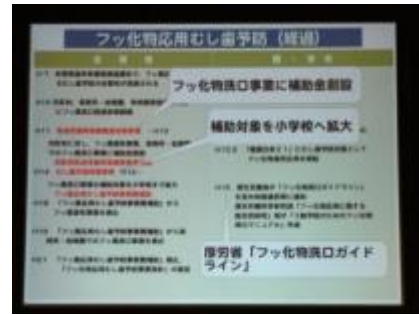


### ③ 佐賀県におけるフッ化物洗口の取組

（佐賀県健康福祉本部歯科医療総括監 岩瀬達雄 先生）

- ・ 平成25年度に全国で初めて全公立小学校でフッ化物洗口実施となった。

- ・平成11年度から平成20年度まで市町村に対して事業費補助を行い、平成21年度にフッ化物応用むし歯予防事業指針を策定した。
- ・むし歯予防の必要性やフッ化物の効果・安全性について県民の理解を得るために、県・県教育委員会・県歯科医師会の連名でテレビスポット広告や新聞広報等を行った。
- ・10～14歳児の歯科医療費は全国と比較しても少なく、平成25年度は全国2位と医療費への効果もでている。
- ・むし歯が少ないことが佐賀県移住のPRポイントの1つになっている。



※ 佐賀県で取り組んだ当初、100%実施を目標とはしなかった。無理にやるようにも言ってこなかった。それぞれの地域でやりやすいように、学校や地域でできるやり方を決めて実施するように進めてきた結果100%となった。県はいつでもやりたいところがあれば支援する体制にある。

④ 韓国における水道水フッロリデーシヨンの現状と成果  
(釜山大学校歯科学専門大学院 教授 金 鎮範)

- ・韓国の12歳児の一人平均むし歯数はOECD加盟国34か国中26位と日本よりも多い状況にある。
- ・水道水フッロリデーシヨンは、1981年に鎮海市で始まり、1997年に国に口腔保健課が新設されてから全国的に拡大したが、反対運動の影響や2007年に口腔保健課が廃止されたことにより水道水フッロリデーシヨンプログラムをはじめとする口腔保健事業が衰退した。フッロリデーシヨンの実施も減少したが、その後微増し、現在(2015年9月)、15地域、239万5千人が水道水フッロリデーシヨンの恩恵を受けている。(韓国総人口の4.8%)
- ・水道水フッロリデーシヨ事業効果の評価を行い、フッロリデーシヨン実施地域は未実施地域より永久歯むし歯経験指数は48%少ないことがわかった。
- ・2009年のフッロリデーシヨ事業で得られた治療費の節約総額は、総事業費用の41.4倍と推定された。



※ 日本のフッロリデーシヨンが韓国の推進力となる。  
 ※ 水道水フッロリデーシヨンは、究極の公衆衛生である。

## 大会宣言 in 佐賀

唐津市で開催された第28回大会の大会宣言は、「集団用フッ化物洗口剤の開発・普及に努める」でした。そして、この宣言は、昨年の製剤の認可で実現となりました。

そして、今回の大会宣言は「集団のフッ化物洗口のさらなる普及、生涯にわたるフッ化物利用として、水道水フッ化剤の啓発、普及に努める。」です。

10年後の大会宣言がどうなるか興味深いところです。10年後はどこで開催されるのでしょうか・・・



**【速報】第39回むし歯予防全国大会 in KUMAMOTO**  
来年度は、平成28年11月5日(土)に熊本県熊本市で開催されます。  
皆様、来年のスケジュール帳へのチェックをお願いします。

~Welcome to Kumamoto~  
熊本でお待ちしております

くまもとで  
まってるモン



## 5 若手奮闘記No. 5

茨城県保健福祉部保健予防課 主任 瀧澤 伸枝



### 【はじめに】

行歯会の皆様，大変お世話になっております。いつも貴重な情報をいただきありがとうございます。

平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨の際にも，行歯会の皆様には大変お世話になり，ありがとうございます。

### 【自己紹介】

私は大学を卒業し，口腔外科に所属した後，公衆衛生学講座で学位を取得し，平成 26 年 4 月より茨城県に任期付職員として勤務しております。3 年任期で，現在 2 年目です。

採用時より「任期中に結果を出すように」と言われているため，通常業務に加え新しい取り組みを行い，3 年間全力で走り続けているところです。

### 【茨城県の課題（歯科）】

茨城県は，人口 10 万対歯科医師数が多い方から 33 位，歯科衛生士数が多い方から 44 位と，医療資源が十分とは言えません。

3 歳児，12 歳児でのう蝕のない者の割合は，全国平均より悪い状況にあり，本県の集団応用フッ化物洗口施設数が多い方から 46 位です。

### 【茨城県の行政歯科専門職について】

本県の歯科専門職配置状況は，県では，県庁には私の他に歯科衛生士が 1 人，12 保健所中 3 保健所に 3 人の歯科衛生士が配置されております。また，44 市町村中 9 市町村に 15 人の歯科衛生士が配置されております。

県での歯科専門職は，20，30，40，50 歳代すべております。背景は，大学卒業後直ちに入庁したフレッシュな方，障害者歯科に携わっていた方，行政一筋の方と様々です。定期的にミーティングを開催し，ご指導いただくとともに情報交換を行っております。

### 【茨城県の歯科保健の特徴】

茨城県では 80 歳で 20 本以上の歯を保つこと及び 64 歳で 24 本以上の歯を保つことを目的とした「8020・6424 運動」を推進しています。

また，平成 22 年 11 月 8 日に「茨城県歯と口腔の健康づくり 8020・6424 推進条例」が施行されました。条例には 11 月 8 日から 21 日までを「茨城県 8020・6424 運動推進期間」と定めており，期間中には庁内でも普及啓発の展示を行いました。



### 【茨城県の歯科保健計画について】

本県では「第2次健康いばらき21プラン」の「歯科口腔編」に歯科保健計画が記載されています。

- ・ 歯科疾患の予防
- ・ 口腔機能の維持・向上
- ・ 定期的な歯科検診を受けることが困難な者への歯科口腔保健
- ・ 社会環境の整備

それぞれについて、幅広く施策を行っております。

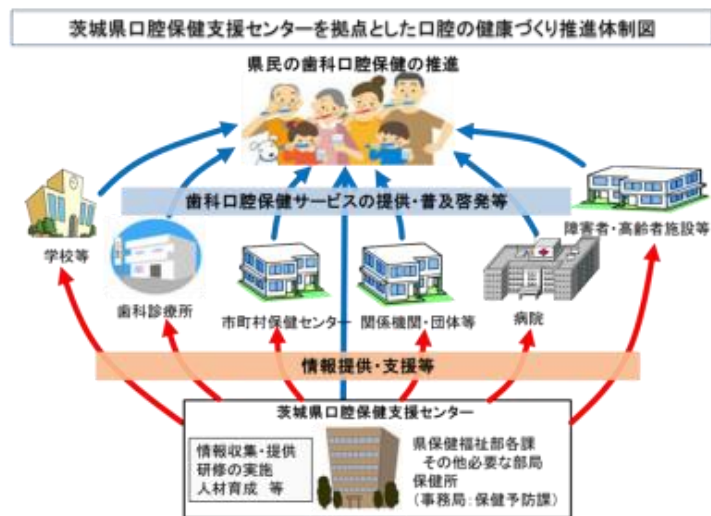
### 【茨城県口腔保健支援センターについて】

昨年4月1日に上司より「来年の新規予算の要求で、重要政策として口腔保健支援センターを設置するように」と言われました。

まず、国立保健医療科学院の短期研修でセンター設置県の方とお話することで、口腔保健支援センターのイメージをつかむことができました。予算要求時には連日資料作成に追われました。センター設置がほぼ決まった段階で、設置要項の作成、看板の発注、開所式の準備等を行い、今年4月1日に設置することとなりました。

特にセンター設置県の行歯会の先生方には、大変お忙しい中、質問に快くご回答いただき、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

今年8月20日には口腔保健支援センター運営委員会を開催しました。今後はセンターでの施策の充実に努めたいと考えております。



### 【周りの皆様への感謝】

歯科医師会等の関係団体の皆様には、いつも大変お世話になっております。行政の歯科保健専門職の皆様にも、いつも丁寧にご指導いただいております。課内の皆様には、多職種の視点からご指導をいただいております。

その他、多くの方々に支えていただいております、日々感謝の気持ちを忘れずに仕事をしております。

### 【最後に】

限られた任期ではありますが、これからも県民の歯科保健の向上をはじめとした健康づくりに取り組みたいと考えております。

行歯会の皆様、今後ともよろしくお願いたします。

☆編集後記☆

今年もあと少しとなりました。いろいろな出来事がありますが離れていても情報交換でき、全国の仲間に勇気と希望をもらえます。来年もどうぞよろしくお願いします。(T)

今回は11月に行われた行事等の報告と若手奮闘記となりました。原稿執筆にご協力くださいました皆様にお礼申し上げます。(K)

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。